

經世秘策

卷上

傳 五

農務省 圖書 第五冊 共

大政官文庫			
	一〇七三	和書	門
	二〇七三	和書	門
二九	九三	函	冊

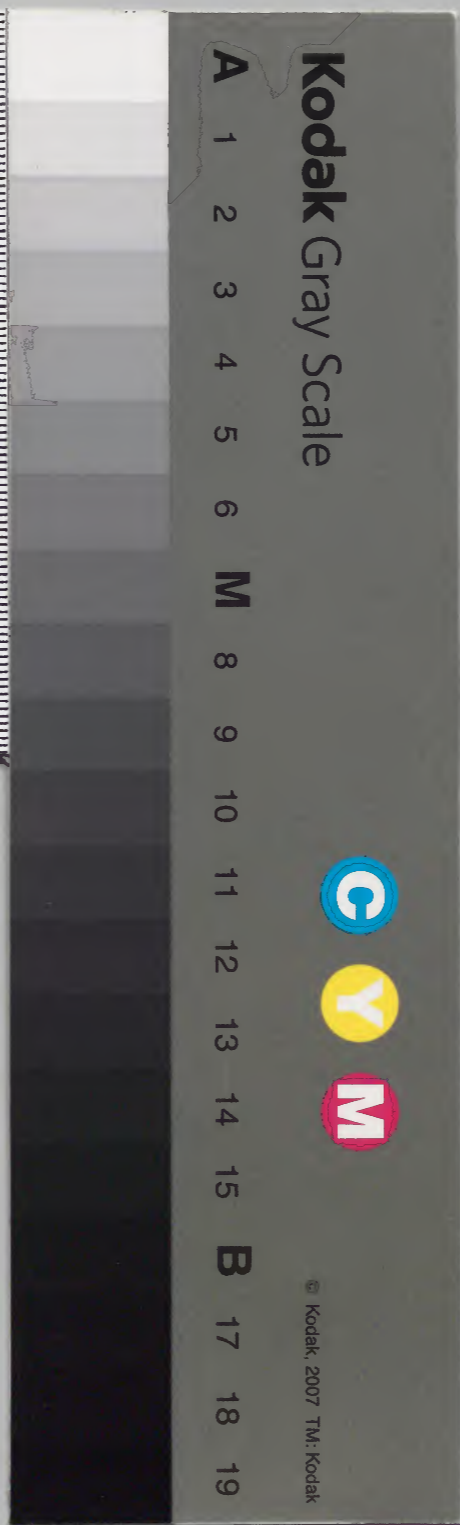
444

内閣文庫			
八二	一〇七三	和書	類
一三	二〇七三	和書	類
一三	二〇七三	函	冊

内閣文庫			
番號	和	11073	
冊數	2 ( 1 )		
函號	182	444	

經 濟

五七号



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり





Faint vertical Japanese text columns on the left page, including characters like 大正 and 陸軍省.

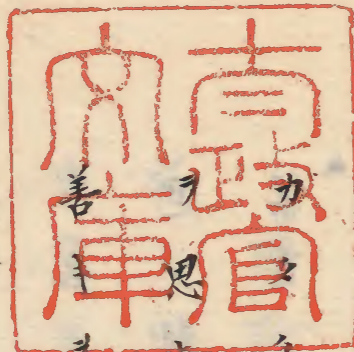




經世秘策卷上

無名氏著

我々固ヨリ臣ナレバ人モ亦臣ナレバ同物  
又同體ノ論ナレハ論ナシ論ナケレハ止ミ



日本ニ生ヲ稟タル者誰カ国家ノ為  
計ラザラン国家ノ為ニ惡キヲ悦ビ  
憎ニヤ然レハ善事ハ俱ニ扶ケ悦ビ  
惡事ハ俱ニ避ケ憎ムベキハ固ヨリ日本ニ  
生ヲ稟タル身ノ持前也然ルヲ當時ノ風俗



左ハナキノミニ非ス因ノ為メ家ノ為メ宜  
シキ前アレハ妬奸讒倭ノ徒出テ是ヲ破ル  
ニ至ル善事ハ常ニ弱ク惡事ハ常ニ強キハ  
世ノ習ハヤニテ終ニ其善ヲ遂ルヲ能ハス  
富貴ハ得難ク貧賤ハ得安キガ如シ是誰カ  
過失ヨリ出タルカト眞實ニ裁モテ探索ア  
レハ黙然トシテ諦悟フルベキハ勿論ナリ  
難有テ當時ノ如ク天下靜謐ナルハ日本開  
關以來格テナレハ萬民其所ヲ得テ其樂ヲ

樂ハナリ鼓腹ト云テ此時ヲ云ハシ因テ萬  
民追日追月増殖ノ勢ヒヲ為スハ至極其筭  
ノコト也是ニ從ヒ國產モ亦追日追月増殖  
ヤサレハ天下ノ國用不足スル故日本國中  
ノ曠野及ヒ空山マテモ土地ノ限リハ皆開  
發シ田畑トナリテ農業耕作シテ百穀百菓  
出產ヤサレハナラズ若是カ不足ヤハ萬民  
ノ國用不足トナリテ凶歲饑饉ニ當リテ饑  
渴ノ庶民出来スル也其内農民多ク餓死ス



ル故國産不足ニナリテ世ノ中靜謐ナラス  
萬民ハ農民ヨリ養育シテ士農工商遊民ト  
次第階級立テ鈞合程ヨク世ノ中靜謐ニア  
リシヲ國本タル農民餓死多キ故ニ不鈞合  
ト成テ種々様々ノ災害湧出此方ヲ防キ鎮  
レハ彼方騷キ立彼方ヲ防キ鎮レハ此方騷  
キ立是貧窮ヨリシテ然リ因テ遠ク慮ラヌ  
シハナラス其遠ク慮ルハ何ヲ主ト為メ策  
ルトイフニ進日進月増殖スル四民ノ勢ト

ヲ折カヌ様ニト慮ラヌシハナラス其勢ト  
ヲ折カヌ様ニ策ルニハ四大急務ヲ以テ國  
政ノ最第一トシテ治ルニ於テハ増殖ニ往  
キ開トキ故ニ彌盛ニ増殖スル故當時ノ如  
ク大造ニ良田畠ヲ世襲トスルコトナク却  
良田畠ヲ開添テ國家豊饒トナル若過ツテ  
此四大急務ヲ以テ不治ハ治平ノ國政ニ不  
協シテ世襲手餘地進月進年増殖シテ終ニ  
災害並到ルコトハ古今ノ定例也依テ治平



ニハ是非トモニ此四大急務ヲ以テ國政ノ  
最第一トシ通用金銀ニ際限有テ放チアタ  
ヘ四民ノ階級ヲ維持テ爵祿トイヘ氏貧富  
ニ條レハ通用金銀ノ際限ヲ建ルコトハ肝  
要ナリ若過テ通用金銀ニ際限ナク保チ與  
ユル寸ハ庶人ノ内ニ豪富出来國政ニ害ア  
ルノミニ非ス奸商湧出入知ラス異國へ拔  
行ク憂アリ依テ通用金銀ノ員數ニ際限ヲ  
建テ放チ与ユルコト肝要ナリ天下ノ金銀

銅ハ通用ノ外ハ残ラス上ハ益積ヤサレハ  
國家ヲ永久ニ保チ難シ其譯後ニ見ヘタリ  
若過テ際限ナク放チ与ユルハ諸色高直  
ニナリテ金銀ノ位ヲ卑トスルモ也五十年以  
前マテハ本綿一反代四百文クライヨリ六  
七百文ヲ最上ノ高直トセリ今ハ一貫文ヨ  
リ二貫文クテラ通用金銀ノ位漸ク卑下スル  
ハ國産ノ出来高ト通用金銀ト其多少不釣  
合トナル故ナリ當時ハ殊ニ農民減少シテ  
國産出高逐年不定トナルニ通用金銀ハ前



カヨリ融通シテ不朽ノ上へ猶追々放チ与  
ユルユへ益諸色高直トナルナリ金銀ハ位  
貴キヲ以テ治道ニ益アリトセリ殊ニ通用  
金銀ハ國産融通ヲ司テ四民ノ階級ヲ正ス  
ノ要務ナレバ不多少諸色ノ直段中分ナ  
ル所ニ際限ヲ立テ餘リニ下直ナラバ放チ  
与へ餘リニ高直ナラバ引揚ゲ是ヲ制スレ  
ハ五十年以來ノ平均相庭ヲ以テ大的ヲ見  
定メ常ニ密々差引セサレハナラス其餘ハ

秘庫ニ納テ出スコトヲ嚴禁セリ爰ヲ以テ  
四民ノ階級嚴立シテ遊民退轉ニ世ノ中靜  
謐ナリ是ヲ自然ヲ取ノ政務ト云テ萬民ノ  
恨ニ悔ミヲ避ルノ秘策也是又政事第一ノ  
仕方ナリ四大急務ヲ以テ治ルトキハ此通  
用金銀ノ差引ハ其内ニ籠リ是非トモニ如  
此セサレハナラヌコトナレトモ當時ノ如  
ク大切ノ政務肝要タル通用金銀ニ際限ナ  
キトキハ追日追月種々様々ノ災害湧キ出



テ其防策ニ精力洩レテ肝要タル政事ニ手  
板デキ不圖災害到来スルモノナレハ通用  
金銀ノ多少差引ハ治道第一ノ政務ナリ通  
用金銀ヲ以テ時勢ヲ制作シ四民ノ稼穡ニ  
懈怠セヌ様仕向スルヲ治平ノ田君ノ天職  
トセリ此四大急務ヲ以テ治ルトキハ善事  
是事吉事ノミハ重ニ到来シテ上下萬民内  
心悅ヒ何事モ清ク潔ク行レテ誠ニ萬歳ヲ  
唱フル御代トナリ珍重トモ重疊トモイフ

ベキヤウナシ四大急務ト云ハ何ヲ以テ名  
付タルトナレハ第一燭硝第二諸金第三船  
舶第四錫島ノ開業ヲイヘリ此四ヶ條ハ當  
時ノ大急務ナル故ニ四大急務ト云其四ヶ  
條ヲ分テ左ニ其大概ヲ述

第一燭硝ト云ハ土地ニ燭硝ヲ生ヌ海中ニ  
潮汐ヲ生ヌ天下萬國皆然リ大陽ノ温リ火  
ノ炎性也土地ノ燭硝ヲ取テスニ置ハ或ハ  
天雷墮落シテ火災トナリ或ハ乾燥ナル時



ニ天火ヲ招キ火災トナリ或ハ人ノ過失出  
来スレハ忽チ大火トナル猛火人力ノ鎮ム  
ベキニ非レハ大都會トイヘトモ一点ノ炎  
地トナル類モ皆是レ焰硝掘リ取ガルノ過  
失ナリ如此災害ノ出来スルモノナレハ是  
ヲ掘採テ火災ノ憂ヲ資ルハ勿論國務ニ十  
ルナリコレノミニ非ス多ク採テ多ク所持  
スレハ武備ノ要害武國ノ名ニ扱ヒ盛衰勝  
劣モ固ヨリ焰硝益積ノ多クニ因レリ叔又

治平ニ國家ノ大用ニ立テ其益莫太ナリ或  
ハ河舟運送不便利ニシテ其國其處ニ自腐  
スル國産アルヲ扶ケ他國へ出シテ國用ニ  
達スルニハ先ツ河道ヲ通ゼンニ河筋ニ多  
ク岩石アツテ堰トナリ河舟不通ニハ岩石  
ヲ掘割ニ人力ノ及ヒ難キヲ焰硝ヲ用テ反  
割セハ容易ク掘割出来河道開ケ河舟通用  
ニ國産運送ニ他國へ出シテ國用ニ達シ或  
ハ險阻ナル峠道アラハナルヘキタケ岩石



ヲ振割切通シヲ修理セシニ人力ノ及ビカ  
タキヲ燭硝ヲ用テ容易ク振割出来往還道  
ヲ設テ庶人ノ辛苦ヲ助ケ或ハ渡海ノ船路  
磯辺通りニ古来ヨリ灘ト唱ヘ難所ノ水崇  
ノ大岩石及ヒ港々泊々ニモ水崇ノ岩石ア  
ツテ往来ノ船船動スレハ破船シテ國産  
ヲ損失シソレノミニ非ラス大切ノ國民モ  
溺死スル杯ハ燭硝ヲ以テ反割シ其憂ヲ省  
キ或ハ江州ノ湖ノ如キ周廻四十里ノ懐内

ノ溜水ヲ宇獅子飛ト云所ヨリ吐ク其落口  
ノ幅僅ニ五七間殊ニ真石ノ一枚盤ナレハ  
大昔ヨリ大瀧トナツテ吐トイヘ尺僅ニ五  
七間ナレハ落兼テ大雨ノ度々四十里ノ周  
廻ヘ溢レ湖リ古田畑迄モ水腐スルヲ夥ク  
昔河村隨軒ナル者アツテ巧カヲ竭シ雜費  
モ投シタレ尺其詮ナシトイヘリ是等ハ燭  
硝ヲ用テ反割ハ人力ヲ不用シテ意ノ如ク  
振割出来河道通シ一國ノ國産河舟ヲ用テ



運送便利ヲ得ルノミニ非ス周廻ノ古田島  
ノ水窟ノ憂ヲ除キ其工周廻ニ新田島獨ト  
出来數十萬石ノ鄉村出来ニ衰世ノ一助ト  
モ成ベシ其外燭硝ノ大功勝テ算ヘカクシ  
都テ開業ノ大業ハ燭硝ヲ不用シテナシ難  
シ故ニ歐羅巴洲ハ燭硝ヲ以テ國家ニ最良  
最長ノ産物トシテ國用ニ達シ大功ヲ取ル  
コト夥シ當時ノ如ク官ニ燭硝ヲ採採ルコ  
トヲ丹誠ヤス貴物ニヤサレハ庶民モ亦採

採ルコトヲ丹誠ヤス大雨洪水ノ度々雨水  
ニツレテ大海ニ流レ入テ潮汐トナル採採  
レハ國家ニ益ヲ得採取サレハ國家ニ益ナ  
シ採取ニ入用雜費モ掛ルトイハ氏燭硝ハ  
國用ニ立テ大益ヲ得ル産物トレハ入用雜  
費ノ損得ノ預ルヘキニ非ス入用雜費ハ國  
ノ民ノミ取レハ我ガ子ニ與ユルニ類セノ  
數倍ト成テ戻り来ル融通ノ金銀トレハ入  
用雜費ヲ廢ハス庶民進ニテ採取ル様ニ仕



掛スルヲ以テ自然ト風俗立テ掘取ルナリ  
如此大切ナル物ニ急務、第一トス  
第二諸金ト云ハ諸國ニコレアル金銀銅鐵  
鉱山ナリ夥クアリトイヘ氏皆廢山トナリ  
國ニ益アルコトナシ此過失、出生ヲ探索  
スレハ金銀銅山共ニ廢山トナルヘキ深秘  
ノ道理アリ先銅山ノ道理ヲ論セン余先年  
奥州某ノ領ヲ旅行セシ節城下ニ到レハ獄  
門首ノ掛タルアリ立寄テ見レハ此者國禁

ヲ犯シタル科ニ依テ死罪ノ上獄門ニ行フ  
モノナリト記シタリ如何様ノ國禁ヲ犯ヤ  
シカト竊ニ土人ニ尋問ヤシニ此領内ノ金  
銀銅山、多キヲ旅人ニ手引ヤシテ露顯シ  
テ罪科ヲ蒙リタリトイヘリイカナル趣意  
アリテ金銀銅山ヲ深ク禁秘スルカト根ヲ  
推テ探索スルニ當時當領ノ新銅掘出シ高  
殘ラズ上ニ奉ル掟ナルニ當山ヨリ年々  
掘出シタル新銅殘ラズ上納アリソノ價金



ヲ本途直段ヲ以テ賜ルトイヘトモ銅山惣  
入用ノ雜費ト差引スレハ大分ニ不足シテ  
一箇ニ付若干ノ損亡アルトイヘリ近來凶  
歲以來領主貧窮シテ銅山ノ堀子ノ手當ヲ  
領主貧窮セシニヨリ其給不輕薄トナルエ  
ハ堀子ノ渡世産業ニナリカタク故ニ段々  
新銅出元減少シテ當時既ニ絶々トナリタ  
リ利潤ハナシトイフトモ責テハ雜費ノ償  
ニ不足トハ餘リニ齟齬シタルナリ羽州

ニモ銅山アリテ右領同様ニ上納アレトモ  
是モ亦右領銅山ト同様ニ損亡多ク領主モ  
其償ニ國力及ハスシテ新堀出方絶々ニナ  
リタルナリ本途直段ハ非義非道ノ様ナレ  
トモ左ニ非ス其實ハ國力ノ保チヲ策ル密  
計ニ照ヒテ良制也諸國ノ金銀銅山ノ所在  
ヲ秘シ隱スハ皆是本途直段ヲ恐ル、故ニ  
リ此本途直段ノ制度ナク自然相場ニ依テ  
相對賣勝手次第トアラハ諸國ノ金銀銅山



ヲ我勝ニ堀採テ異國へ渡シ國ニ骨ナシト  
ナルヘキヲ本途直段ノ制度アツテ國ノ力  
ヲ保チアヤアテノ高名トモイフヘシ其趣  
意ヲ云ハ異國ヨリ持渡ル産物ハ都テ永久  
不朽ニ止テ國ノ益アルハナシ日本ヨリ渡  
ス所ノ金銀銅ハ永久不朽ノ長貨ナレハ實  
ニ國ノ骨ナリ其長貨ヲ年限モナク渡スト  
イフハ餘リ如何々歟了也全辭ヲ以テ論ス  
レハ大昔ヨリ諸國ニテ堀リ出シタル所ノ

金銀銅ハ代々ノ將軍家及諸侯ノ家ニ傳  
來永久蘊積有テ國家ノ大用ニ違スヘキハ  
固ヨリシカリ國家ノ大用ト云ハ異國交易  
ニ金銀銅ヲ渡ストテ嚴禁アリテ日本ノ國  
用ニ立テ永久ニ遺シテテ教示スルナリ木  
家作リニテハ跡ヨリ修理再建透間ナク人  
カヲ破ルノ費是ヨリ大ナルハナシ因テ庶  
人マテモ勝手ニ任セ木柱ノ分ハ石柱ヲ用  
ヒ屋根ハ銅板ヲ用ヒ永久不朽ノ家作ノ住



居トナラハ庶人マテモ金銀銅ハ國ノ骨々  
ル良智モ開ケ異國交易ニ渡ス所ノ金銀銅  
ヲ傳止スル氏人氣ニ背クナク俱ニ制シ  
テ止マルナラシ何レ國用萬事ノ根本タル  
金銀銅ナレハ日本ヲ出テ異國ハ扱ケ行ヌ  
様ニ制度建立アリタシ大切タル長貨ナレ  
ハ代々ノ將軍家及諸候ノ家々ニ永久傳來  
所持アルヘキハ萬民ニ父母タル職業ノ根  
本ナリ金銀銅急ノ入用アリテモ暫時ニ掘

採ルナラハナラヌ岩窟中ノ仕業ナレハ常ニ  
手ヲ引セヌ様ニ掘子ヲ介抱スヘキハ是又  
人君ノ天職ナリ此介抱ニ懈怠アレハ損得  
ニ係テ所謂山師ノ所業ト等ク國君ノ天職  
ニ非ス國君ノ國務ハ入用雜費ニ拘ハラヌ  
國家ノ益ヲ取ルヲ主トセリ青砥ガ滑川ノ  
紛失物ヲ索メシ如ク入用雜費ハ國民ノニ  
取レハ我カ子ニ與フルニ等シ如斯大切ナ  
ル諸金ナレハ急務ヲ第二トス



第三船舶ト云ハ天下ノ産物ヲ官ノ船舶ヲ  
用テ渡海運送交易シテ天下ニ有無ヲ通シ  
萬民ノ饑寒ヲ救フヲ云ナリ渡海運送交易  
ハ國君ノ天職ナレハ商民ニ任スベキニ非  
ス若誤テ商民ニノ任スルニ於テハ奸計  
實欲ヲ恣ニスルニハ國中ノ諸色ノ直段平  
均スルナク莫太ニ相場不同高下アリテ  
農民立カタク是ヲ救フハ官ノ船舶ヲ以テ  
渡海運送交易スレハ自然ト諸色ノ直段平

均シテ農民救ヒナ蒙ルナリ官ノ船舶ナク  
渡海運送交易ヲ商民ニノ任スルニ於テ  
ハ追日追月士農二民困窮シテ凶歲饑饉ニ  
當レハ萬民ニ先々テ農民多ク饑死シテ田  
畑ノ凶穀出来シ國産減少シ天下ノ國用不  
足トナリ國家ノ衰微到ル是ヨリ人氣背キ  
刑罰人多ク出テ國民ヲ失フモノ也固ヨリ  
大切ナル國民ナレハ一人ヲ失フマシキ  
ヲ死刑ニ處ヤシハ惜ハク且又不便千萬ナ



リ天民一人廢込スルハ皆國君ノ科ナリ都  
テ庶民ノ艱難災害罪科ノ品々多ク諸色ノ  
相場不同高下アツテ庶民恨悔憤怒ノ遺念  
凝塊ヨリ出生セリ諸色ノ相場不同高下ハ  
渡海運送不便利ヨリ出生セリ渡海運送不  
便利ハ國君ノ船舶ナク其官職ナキニハ計  
ラス知ラス國君ノ天職ヲ廢スルナリ當時  
ノ有様ヲイハハカク大切ノ渡海運送交易  
ヲ商賈ノ家業トセラル制度ニハ交易ニ商賈

ノ家業ト國君ノ天職トノ差別アルヲ辨  
ハス是故ニ渡海ノ道開ケス渡海ノ道開ケ  
サル故ニ運送交易ハ都テ商賈ノ家業トハ  
ナレリ渡海ノ道開ケルニ於テハ天下ノ諸  
産物ノ直段平均シテ士農ノ二民救ハレ追  
日追月國産増殖シテ國家ニ豊饒ヲ副ハシ  
固ヨリ人亦牛馬ノ力ヲ以テ大都會ノ萬民  
ハ哺啜シ難シ船舶ノ運漕ヲ用テ哺啜セサ  
レバ養育スルヲ能ハス唯今ノ終ニ商民ノ



船舶ノミニテ渡海交易スルニ於テハ終ニ  
大災害ヲ招クノ道アリ改革ナケレバナラ  
ズ大災害ヲ招クノ道理ヲイハハ當時夜盜  
強盜ノ穿鑿嚴重ノ名アリテ其實ハ竊議不  
行届シテ武家ノ江戸廻米凡四分ノ一ハ途  
中ニテ船頭水主奪取テ後偽訴ヲ以テ事濟  
来レリ訴状ノ趣意ヲ云ハ難風ニ遇ヒ洋中  
ニ於テ破船或ハ投荷シテ船足ヲ揚ケ難風  
ヲ凌キ命バカリヲ漸ク助タル旨浦證ニ認

メ其有司ニ訴ルニ有司心中ニ偽訴タルヲ  
推察スルトイハ氏手船ニナキノミニ非ス  
上乗役宰領役ノ者モナク其眞偽何ニ由テ  
糾スヘキヤウナク其終ニ打棄アルヲ常ト  
セシヨリ今ニ至リテ其癖ヤマス甚敷ハ佐  
州ノ外浦ナリ土人イヘルハ當年ハ破船殊  
ニナシ故ニ手繰宜シカラス兼テ約諾ノ嫁  
ヲヤリ引婿ヲ取ルモ延引シテ来年ニモ宜  
シキ儀アラハ早速遣り取りノ婚姻スベシ



ト云其實ヲ探索スレハ大風烈ノ節渡海ノ  
船舶漂流シ破船モアラシク時節ハ外浦ノ灘  
磯ノ山頂ニ登リ深夜ニ篝火ヲ焚キ沖ニ漂  
ヒ居ル船舶ヲ迷惑サセ此篝火ヲ見テ湊カ  
泊リノ常夜燈ニモアラシク其火光ヲ使  
リ流レ来ルヲ待居テ漂著スルヨリ早ク大  
勢ノ濱人其手々ニ得道具ヲ携ヘ出テ舟人  
ノ助命ハ杖置舟中ノ人数ヲ海中へ打込  
陸地ヘアガラシトスレハ則打込々終ニ一

人モ幾ラス溺死サセ其後濱人寄合舟中ノ  
積荷物ヲ配分シ跡ニテ舟中へ放火シテ燒  
キ拂ヒ無証據ト為セシトハ佐州ノ外浦ノ  
ニニ限ラヌ諸國辺鄙ノ浦々ニハ毎々アル  
丁ニテ渡海ノ船舶昇第一ノ災害ナリ是海  
賊ノ萌ニテ國家政事ノ大瑕瑾ナリ當時既  
ニ諸侯ノ家臣本祿ヲ給ハルハナニ半知以  
上ノ借揚ダニ遇セテ主ヲ恨ムル丁怨敵ノ  
如ク常ニ忿憤ノ遺念ヲ益積ニ堪ヘ兼テ藩



中ヲ立退キ盜賊トナリ諸國ヲ横行スル様  
ニナラハ彼ノ濱辺ノ土人トカタラセ海賊  
トナラハ益盜賊剛強トナリテ大昔ニ復ス  
勢ヒテ生スベシ故ニ歐羅巴諸國ハ国王ア  
ツテ萬民ヲ撫育スルニ渡海運送交易ヲ以  
テ飢寒ヲ救フヲ国王ノ天職トセリ故ニ盜  
賊杯ハ決シテナシ殊ニ日本ハ海國ナリ運  
送交易ハ國家政務ノ肝要タルコトハ勿論  
ナリ當時運送ノ船舶ハ磯辺ヲ離レテ遠沖

ヲ乘リ廻ルコトヲセス皆磯辺ノミヲ附キ  
纏ヒ乗廻スルヲ要トセリ唯目力ノ及フ所  
ノ山々カ島々ヲ目的トナシテ渡海スルニ  
ハ地方ヨリ沖ノ方ヘ大風吹出シテハ必ズ  
度ニ迷フナリ山々島々モ遠クナリ最早目  
力モ及ヒ難キニ至レハ直ニコトヲ失ヒ漂  
ヒ是洋中第一ノ天文算数ナク渡海ノ法則  
ナキニ依テ行衛知ラストナル船舶年々  
其數ヲ知ラス年々莫太ナル國產ヲ棄ル



ノミニ非ス大切ノ國民ヲ失フナリ渡海ノ  
道開ルニ於テハ海中へ棄レル米穀及々外  
諸産物ヲ助ルニヨリ大ナル償約ニモナリ  
テ國家ニ豊饒ヲ副ルノミニ非ス日本國中  
ノ米穀ヲ始メ外諸産物マテモ直段平均ニ  
萬民渡世ノ産業ニ甲乙ナク改道ニ非義ナ  
ケレハ恨悔ヤス依テ萬民コゾツテ萬歳ヲ  
祈ルナリ年々行儀知ラストナル大切ノ國  
民ヲ助命スルノミカ異國へ漂著シテ異國

人へ日本ノ制度ニ關欠アルヲ知ラレス前  
ノ耻辱ヲ償フナリ如斯數々ノ善事アレハ  
急務ノ第三トス

第四屬島ノ開業

此段憚ル事ノ後片々ハ別紙ニ書記シテ

淺シ畢シヌ







卷之七  
 七  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百



